

# 設備点検プラットフォーム「MONiPLAT」 ～創業96年の製造業、初めてのSaaS事業へ挑戦

会社名・団体名

株式会社バルカー

## プロジェクトの背景(Why)：

- バルカーはこれまで「液体・ガスを漏らさない」ためのハード製品（シール材）を展開してきたが、「安全を漏らさない」という新たなコンセプトを作り価値提供レイヤーを1つ上げ、結果生まれたのがMONiPLAT。
- Fintechベンチャー創業メンバーだった中澤が、2021年にCDOとしてバルカーに入社。生産子会社の拠点の視察中にオペレーションの課題を目の当たりにし、メンテナンス領域でのデジタル化に機会を見出す。
- メンテナンス領域はアナログ業務が残り、デジタル化余地が大。日本の製造業の効率化は、国益にも資すると判断。まずはTBM\*の使い易いサービスで顧客基盤を拡げ、その後、様々なCBM\*ソリューションを広く提供していく戦略。

## プロジェクトの内容(What)：

- 2021年9月、Slackのコンセプトをベンチマークに、設備保全プラットフォーム“MONiPLAT”の開発に着手。
- MONiPLATは、設備管理を効率的・一元的に実現するプラットフォームとして2023年4月にローンチ。
- TBM\*（日常・定期点検）をスマホで実現するサービス。ローンチ後1年で顧客社数は500社を突破。新しい顧客接点によるハード商材のクロスセル事例も増加。更にCBM\*事業の拡大に取り組み中。

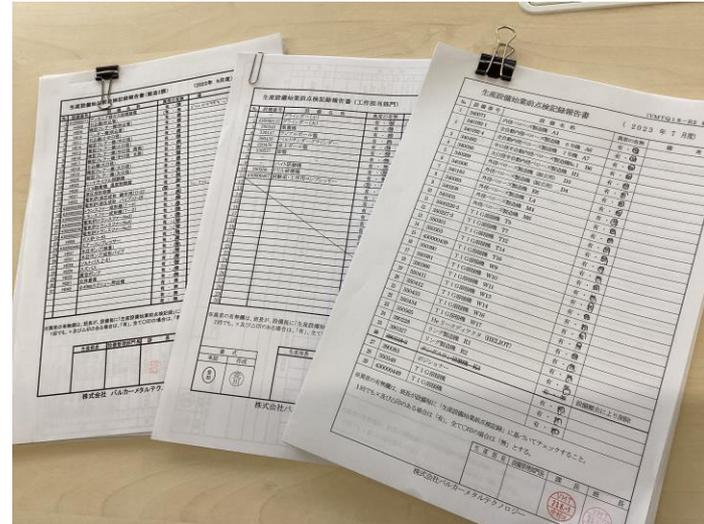
## プロジェクトの進め方/体制(How)：

- 創業96年の老舗製造企業にはデジタル人材は皆無の状態。新任CDOが、自身が創業メンバーであるFintechベンチャー出身のエンジニアを一人一人スカウトし、コアチームを立ち上げ。後に、事業本部とプロジェクトチームを組成。

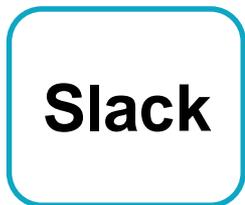
## プロジェクトの目的や背景

### 顧客の課題： 非効率でアナログな設備保全のオペレーション

- 設備点検現場に紙の点検票を持って行き、現場で点検・記入
- 点検結果をエクセルに打ち直し、出力。上長のハンコをもらうために承認ボックスへ
- 上長の承認印をもらった後、バインダーに綴じて保管。その後は活用されず。
- さらに、エクセルをPDF化し、本社の担当部署へ送付しなければならない事業者も多数



Slackのコンセプトをベンチマークにしたデジタル商材“MONiPLAT”の開発に着手。



特徴①まず無料で始められる

- 無料版でSlackに慣れ、Slackなしでは業務が回らなくなる
- 追加機能・ユーザ数増加に応じ、有料化



- 設備20台までは無料で始めて操作感・世界観に慣れてもらう
- 対象設備の増加に応じ、有料化

特徴②現場から始められる

- 上長の承認なしに現場のエンジニア数人で始められる
- ベンチャー企業もどんどん活用



- 意思決定に時間をかけず、保守の現場がサービスを開始して試せる
- 中小企業でも始められる

Slack コンセプトは製造セクターでも効果を発揮

- 多くの顧客が稟議をあげる前に保守現場で無料で試し、有料課金化に進んでいる

デジタル本部×事業本部が連携し、現場がスマホで使える設備点検サービスを上市。

## ✔ 対象設備を検索



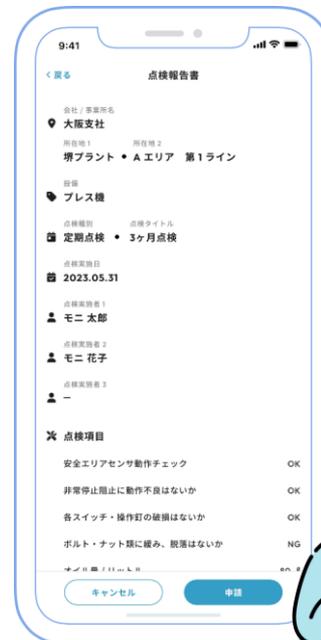
点検設備の検索

## ✔ スマホで報告書作成



点検報告書の作成

## ✔ その場で承認申請



作成済みの点検報告書の確認



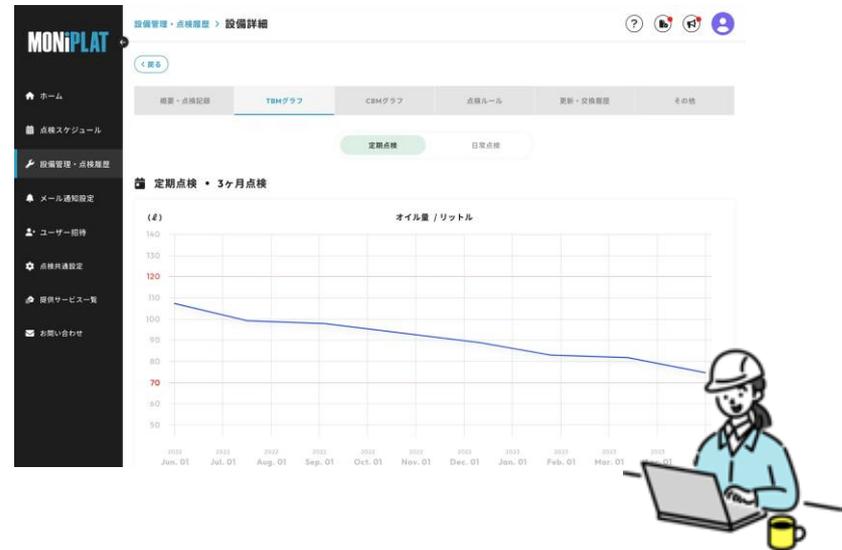
# プロジェクト詳細～MONiPLATの概要

承認者は、Web（PC）で承認や設備状態のデータ分析が可能に。

## ✔ 報告書の承認もWEBで楽々



## ✔ 報告書から点検結果を自動グラフ化



# プロジェクト詳細～MONiPLATの概要

## 設備点検での“あったらいいな”も数多く実装①

- ✔ 設備に貼ったQRから点検開始
- ✔ 点検項目の検索も可能
- ✔ 突発的な臨時点検にも



設備QRコードの読み取り



点検項目の検索



臨時点検



# プロジェクト詳細～MONiPLATの概要



## 設備点検での“あったらいいな”も数多く実装②

### 点検結果の一覧表示 + CSVダウンロード

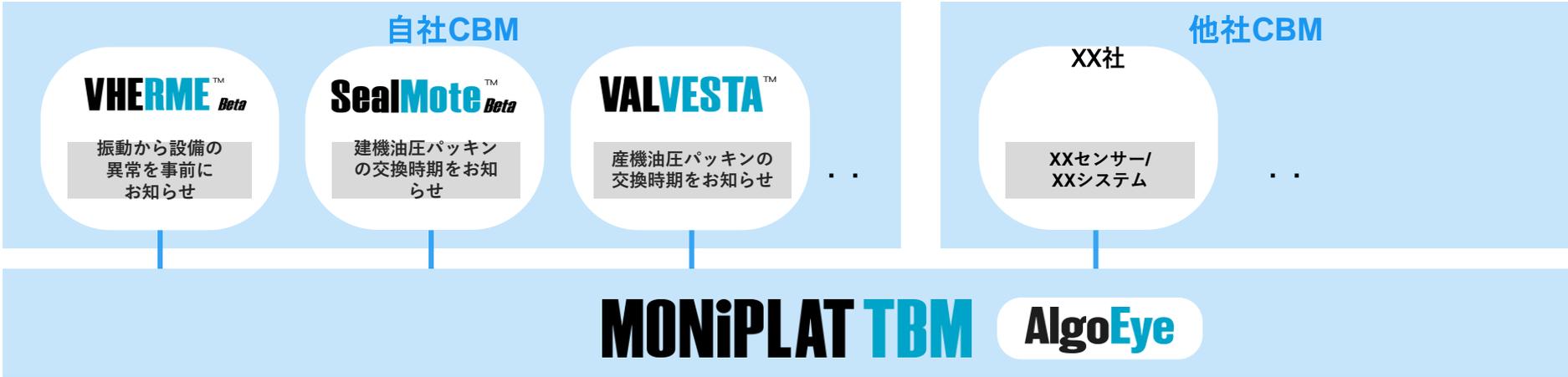
点検結果	DATE									
	24/03/01	24/03/06	24/03/19	24/03/21	24/03/27	24/04/09	24/04/12	24/04/15	24/04/19	24/04/23
実施者	鈴木	佐藤	中澤	佐藤	藤田	美野	渡辺	藤田	渡辺	長井光哉
最終承認者	吉岡英俊	吉岡英俊	吉岡英俊	吉岡英俊	藤田	藤田	藤田	藤田	藤田	藤田
外観・異常の有無	OK									
機内洗浄液・濃度確認 / mL	10	10	120	70	70	70	70	100	100	100
フロートスイッチ/破損、動作不良	未入力	未入力	NG	未入力	未入力	OK	未入力	未入力	未入力	OK
冷却水循環状態/機内冷却音が流れているか	未入力	未入力	OK	未入力	未入力	OK	未入力	未入力	未入力	OK
シールオイル/潤滑計 / L/h	未入力	未入力	400	未入力	未入力	360	未入力	未入力	未入力	300
シールオイル/圧力計 / Kpa	未入力	未入力	700	未入力	未入力	660	未入力	未入力	未入力	780
シールオイル/漏れ / cc/h	未入力									
経路監視機能/電圧計 / A	未入力									
内部ガス吸引管/配管脱落有無	未入力									
内部ガス吸引管/後部温度プロット有無	未入力									
運転時間 / h	未入力									

### 点検実施有無の一覧表示

The screenshot displays a user interface for managing inspection tasks. At the top, there are tabs for '定期点検情報' (Regular Inspection Information) and '日常点検情報' (Daily Inspection Information). Below these, there are several rows of inspection items, each with a dropdown menu for selection and a status indicator (e.g., 'OK', 'NG', '未入力'). The items include 'A点検', '3ヶ月点検', 'C点検', 'B点検', 'BB', '生産設備始業前点検', '日常点検1', '日常点検2', '日常点検3', '日常点検4', and '日常点検5'. The interface is clean and organized, with a focus on providing a clear overview of inspection status.

# プロジェクト詳細～MONiPLATのプロダクトビジョン

TBM機能をフックにユーザーを拡大し、その上で多様なCBMソリューションを展開予定



- ・ TBMはMONiPLATで管理
- ・ 統一画面・UIでCBMからのデータ・異常情報を閲覧

CBMはセンサー・IoT技術の進展で、今後スマートファクトリーの根幹に。その潮流を見据え、TBMで巨大な顧客ベースをまずは作る戦略。

製造業のみならず、インフラ・運送等、様々な業種の保全・点検業務をデジタル化。



～下水道処理施設の運営受託業～

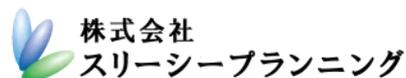
- 処理施設の**機器設備の点検**と**市役所への報告業務**に利用
- **ペーパーレス化**と**1日あたり1.5時間の業務時間削減**を実現



## DIGIC

～パッキング製造および販売業～

- **製造機器点検**（プレス機やクレーン、ノギス等）に利用
- 会社支給iPadの**有効活用**、**スケジュール機能**による**作業ルーティン化/意識向上**を実現



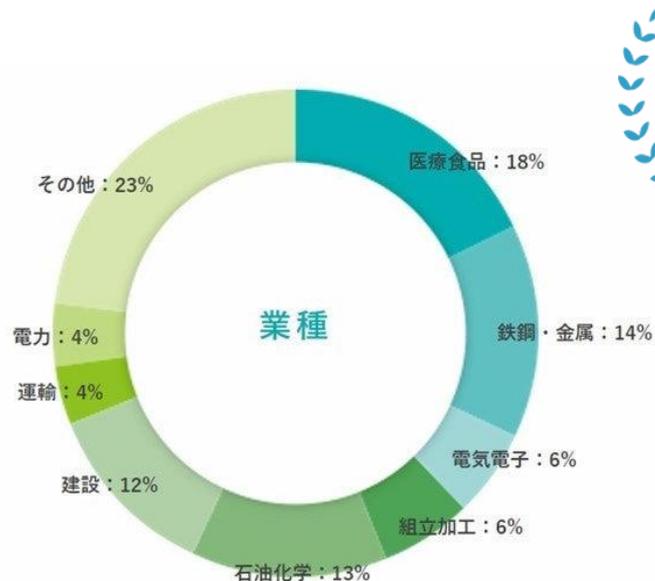
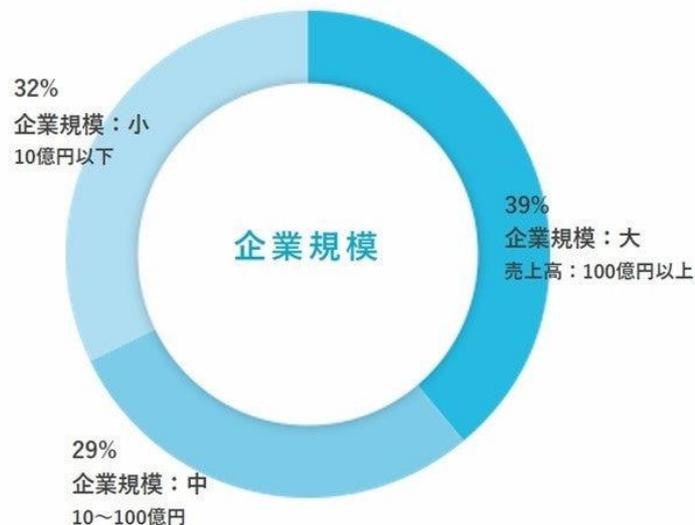
～産業廃棄物処理業～

- **法令乗務前点検**や**定期車両（トラック）点検**に利用
- **エビデンス保持・リアルタイム情報共有**を実現



‘23年4月25日のリリース後、’24年7月で顧客数は700社+まで増加。中小企業の利用も多い。当初想定 of 製造業・石油化学に加え、建設・運輸の顧客からの引き合いも。

(‘24年1月時点の顧客企業の内訳)

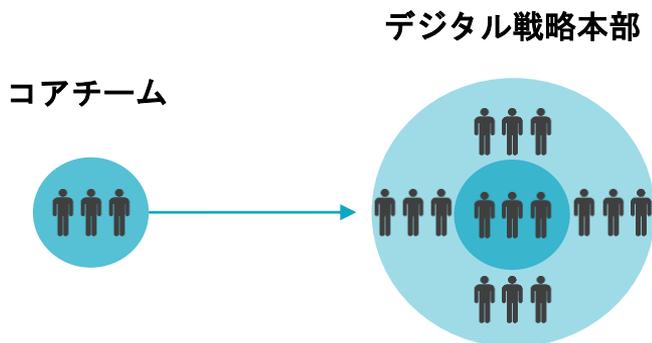


無料で始めたのち、有料課金に進むユーザーも増加中

- MONiPLAT顧客に対する既存シール材製品のクロスセルも加速

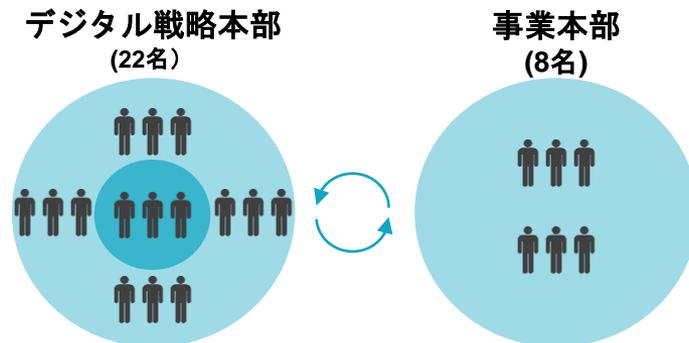
プロジェクト推進組織を立ち上げ・整備する中で、伝統的大企業の文化にもメスを入れた。

## ① 0からデジタルチーム立ち上げ



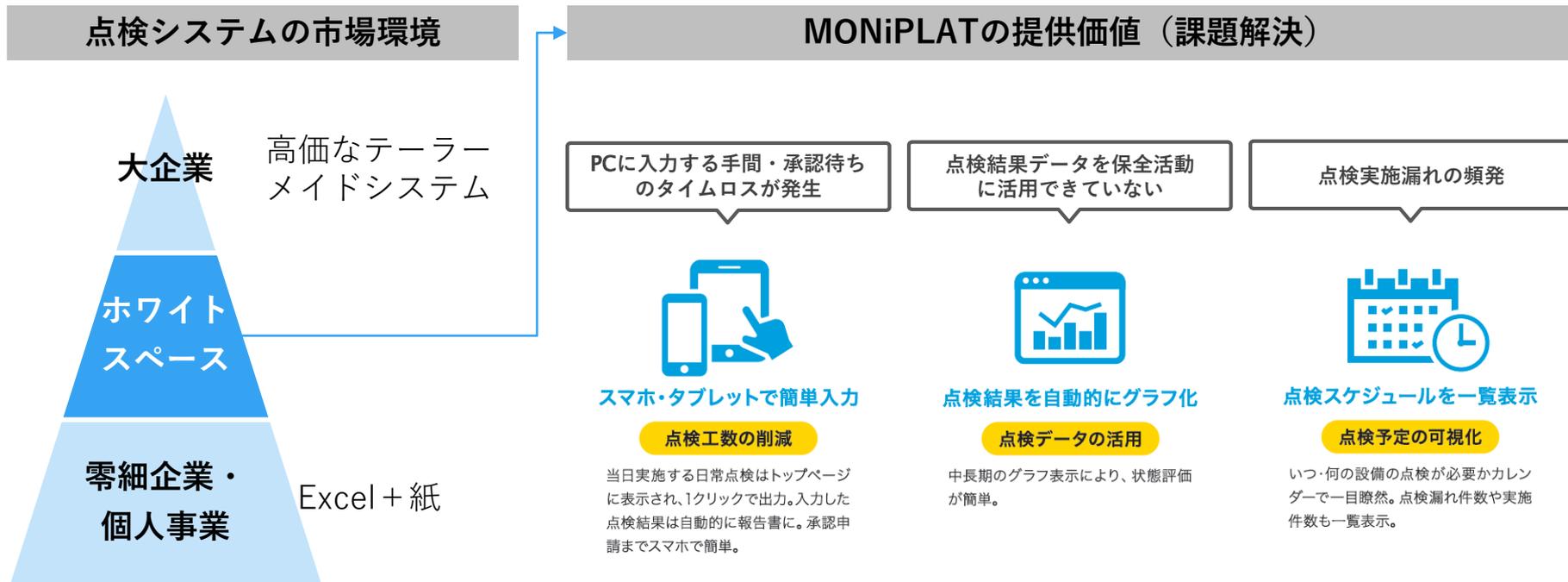
- 創業96年の製造業にデジタル人材は皆無
- CDOが自身の創業したFintechの出身エンジニアを呼び、**開発のコアチーム**を組成
- コアチームが人を呼び、**デジタル本部**へ拡張
- デジタル部門向け人事制度**を創設
  - 事業本部のKPIを評価と紐づけ

## ② 事業本部と「One Team」で進める



- 事業本部とのプロジェクトチーム**(計30名)へ発展
- “組織名+さん”づけ禁止**でベンダー意識根絶
- “わかってるつもり”の撲滅**
  - “言わなくてもわかる”は通用しない
  - 認識Gapを見つけたらその場で是正
- 昔ながらの製造業文化：**完璧にしてから出す**  
→ **出してから完璧にする**  
(デジタル専用のリリース管理の仕組みも策定)

## 大企業と零細企業の運用の中間のホワイトスペースに、デジタルソリューションを提供



MONiPLATリリースと併せ、ハード&ソフトで“漏えいを防いで安心・安全を担保する”  
意思を示すコーポレートスローガン『安全を漏らすな。』を設定。TVCM等を通じて発信。

安全を漏らすな。



## バルカー

隙が生まれるのは、隙間だ。

蛇口からロケットまで。  
部品と部品のつなぎ目から  
液体や気体を漏らさないことで、  
起きたかもしれない事故を防いできた。

しかし、工場にはまだ隙がある。  
AIで予防保全が注目を浴びる一方、  
いつまでも原始的な定期点検。  
惰性の点検をくり返すことは、  
未来の危険を積みかさねることだ。

私たちは見逃さない。  
現場を知るバルカーが開発した  
定期点検クラウド MONiPLAT。

シール材からサービスまで。  
形は変わっても、変わらないこと。  
私たちのVALUEとQUALITYが、  
あなたの工場の安心になる。

工場は、**プラットフォーム**と変わる。

定期点検クラウド

## MONiPLAT



安全を漏らすな。

